

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--


芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃ げきだんあとむ		団体ウェブサイトURL
	有限会社 劇団あとむ		http://www.atomw.co.jp/
代表者職・氏名	代表取締役 秋山京子		
制作団体所在地	〒 169-0051	最寄り駅(バス停)	副都心線 西早稲田駅
	東京都新宿区西早稲田1-4-18 稲穂ビル202		
電話番号	03-6380-2852		
ふりがな 公演団体名	ゆうげんがいしゃ げきだんあとむ		団体ウェブサイトURL
	有限会社 劇団あとむ		http://www.atomw.co.jp/
代表者職・氏名	代表取締役 秋山京子		
公演団体所在地	〒 169-0051	最寄り駅(バス停)	副都心線 西早稲田駅
	東京都新宿区西早稲田1-4-18 稲穂ビル202		
制作団体 設立年月	1984年 1月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表取締役 秋山京子 取締役 楠 定憲 小嶋京子 大場寿子		◎構成員 劇団員 15名 ◎加入条件 研究生を経る
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	秋山京子・楠 定憲
経理処理等の 監査担当の有無	無	経理担当者名	高橋由布子
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	atomw@pop12.odn.ne.jp		

<p>制作団体沿革</p>	<p>1984年1月、演出家関矢幸雄氏を創造リーダーに、クニ河内氏を音楽監督に迎え発足。 『想像力の涵養こそ、生きる力に繋がる』という信念のもとに、ジャンルにとらわれず自由な発想を以て、舞台劇であり、音楽劇であり、人形も使うという、作品づくりをしています。</p> <p>作品は、「厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財」・推薦・特別推薦です。</p>			
<p>学校等における公演実績</p>	<p>◎『あとむの時間はアンデルセン』小学校395校 ◎デンマーク公演6都市17ステージ ◎『あとむの時間はアンデルセン～遊びバージョン～』小学校538校 児童館220館</p> <p>◎『気のいいイワンと不思議な小馬』小学校301校 ◎『あとむのお話コンサート』小学校95校 ◎『走れメロス』小学校 47校 ◎素劇『あとむの童話の森にて』 21校</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>養護学校・特別支援学校 『あとむの時間はアンデルセン～遊びバージョン～』 38校 特別支援学校は各校、人数(50人～300人)・学年(小学生～高校生)差違があります。</p> <p>障害の違いは、全員車椅子・盲・聾の障害・知能障害、等々非常に多様です。 各学校の趣旨によって先生方とよく相談し、ワークショップも本公演も客席も工夫します。 先生の希望により、台本を送り、手話通訳の方を付けることも何度もありましたが、たいていの場合、本番中にまもなく通訳を止めておられました。 あとむの表現「音楽的に語り継ぐ手法・手話等を含めた動き」を観て、子ども達が理解し、楽しんでいると、先生方が認識して下さいます。 こどもたちは特に、みんな音楽が好きで、ハーモニーが好きです。 一切電気音(マイク・電子楽器)を使いません。生の音・音楽も大きな評価を得ています。</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/VR0FKAh9g-A</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 有限会社 劇団あとむ 】

対象	小学生(低学年)	○			
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	○			
企画名	あとむの素劇ミュージカル 				
本公演演目	『あとむの時間はアンデルセン～遊びバージョン～』				
原作/作曲 脚本 演出/振付	原作	H. C. アンデルセン			
	脚本	秋山英昭・関矢幸雄			
	構成・演出	関矢幸雄			
	音楽	クニ河内			
	美術	有賀二郎			
			公演時間	70 分	
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名		
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況		
演目概要	☆ 構成・あらすじ 《音楽劇》 9人の妖精がお話を運ぶ ① 劇『パンをふんだ女の子』 靴を汚さないよう、ぬかるみにパンを置いて渡ろうとした女の子インゲルのお話。 ② 子どもたち参加『アニメイムで遊ぼう』 まず、出演者のアニメイムのユニークなパフォーマンス。その次に子どもたちが参加し、遊びます。 ③ 劇『父さんのすることはみんなよし』 要らない馬を、何かいいものと取り換えようと、父さんは市場に出かけます。色々なものに取り替えていき、ついには腐ったリンゴになっちゃった。さあ、家で待つ母さんはどうするか。ほんどうの値打ちとは？				
演目選択理由	☆ アンデルセンの、弱者に焦点をあわせた人生観、価値観が、童話を通し、楽しく優しく子ども心に届きます。 <アニメイム> 棒とボールと輪を使い、複数の人数で、空中に、瞬時に動物や風景を描く手法。息を合わせひとつの「もの」を創り、命を吹き込む、関矢幸雄演出オリジナルの想像遊びを盛り込みました。 <アカペラコーラス> 3声～5声のハーモニーで、台詞、歌、擬音、すべて生の声で演じます。 <手話> 手話は、意味を伝える美しい動きとして、効果的であり、魅力的な表現のひとつであることを伝えます。				
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	【アニメイム】で遊ぶ 共演は演目概要②の「遊び」の部分で、舞台に出て貰い、即興の呼吸を体験。自由な発想のきっかけを呼び起こします。 劇団員とともに、棒とわっかとボールで、動物や、物の形をつくってみます。 海の波動や、ものの連動など、大勢で伝えていき、息を合わせて動かします。				
出演者	楠 定憲、織田晴光、原田邦治、林 大介、野口 徹 三浦美穂子、京本幸子、高橋由布子、黒木幸枝、藤石夏菜				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	出演者:	10 名	運搬	積載量:	2 t
	スタッフ:	0 名		車 長:	5 m
	合 計:	10 名		台 数:	1 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		3	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	7:30	7:30~10:00	10:30~11:50	無し	12:30~14:00	14時00分
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	5日	0日	0日	5日	15日	
	11月	12月	1月	計	60日	
	20日	5日	10日			
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	10名
		鑑賞人数目安	350名

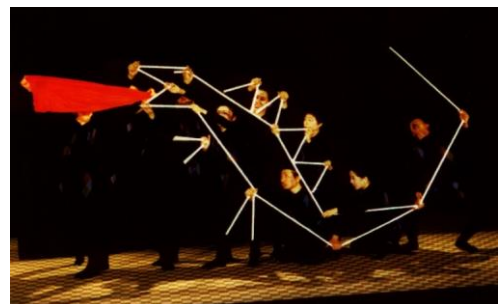
体育館の舞台と客席



①『パンをふんだ女の子』



②『アニメイムで遊ぼう!』



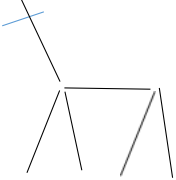
③『どうさんのすることは みんなよし!』



公演に係るビジュアル
イメージ
(舞台の規模や演出が
わかる写真)

※採択決定後、図
面等の提出をお願い
します。

【公演団体名 有限会社 劇団あとむ 】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	1回の人数は全員が物に触り、動くには理想は30人～50人。1時限ずつ、2回(50人×2回=100人)の実施が可能です。
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>《アニメイム》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 棒、ボール、輪をつかった造形を手遊びから、表現へ繋がります。つくりかたの発想を児童、先生方に、提案・指導します。 ◎ 音楽 動きから自然に生まれるリズムや、曲想を楽しむ音楽にふれる機会にします。 ◎ 体験する児童だけでなく、体育・総合教育の時間にも相応しい内容です。 ◎ 全校生徒多数の場合は、学校の舞台に一部生徒を選出参加の形で可能です。 <p>☆90cmの棒 6本 +45cmの棒1本で ⇒  「馬」になります。</p> <p>3人～4人で持って繋ぎ、動かし歩かせたり、乗ってみたいします。</p>		
<p>ワークショップのねらい</p>	<p>【ひとつのものを複数の人でつくる時、みんなで呼吸をはかり合うことが必要だ】 ということ、伝えます。</p> <p>【想像する楽しさ⇒かたちにする面白さ】 1つの線から繋がって三角や四角、星型になったりと、図形遊びを通して自由な発想力と柔軟な思考力を高めます。</p> <p>【複数でひとつのものを想像し、共鳴することの発見】 を伝えます。 例えば、長方形を「ドア」に見立てた時。 ただの長方形をドアに見せるためにはどうしたら良いか？ 呼吸をはかり合い同時に動いてみる、支点を決めて動いてみる、 ドアを開ける人を作ろう… などなど一人では決してできない動きをアイデアを出し合い創造する事で、想像し感じ合う事を自然に学びます。 時には、スライドして動かし「自動ドア！」 なんていう独自の発想が飛び出すこともあります。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>ご準備いただくことは、参加児童各自が使う【棒】を新聞紙をくるくる巻いて、1本、作成して戴きます。 先生方のご負担にならないよう、図や写真でご説明いたします。 ワークショップが終わった後も、各自で新しい思いつきで、遊ぶ事ができます。 他は一切お手数をかけることはありません。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

有限会社 劇団あとむ

】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>『生きる力』として必要なことは「豊かな想像力・感性」だと考えます。想像力をもって深く洞察し、解釈して、発想する力を持つことが出来ます。本事業の趣旨そのもの、これからの未来を担う子どもたちの想像力・感性を、高い芸術性をもって豊かに育てることが私達の役割です。想像力から発想力へ繋げることが、考える力・行動する力・生きる力になると確信します。究極、『優しく、つよく、賢い子』に育ってほしい。</p> <p>想像力を喚起するために、説明的な表現を排し、ジャンルにとらわれず、あらゆる演劇的 表現を工夫しました。「みたてる力」を育てる〈アニメイム〉や、〈素劇すげき〉の手法等で、オリジナルの表現を創造してきました。それは日常の教育内容や遊びにも、おおいに展開を盛り込める、画期的表現手法です。</p> <p>演劇という媒体こそ、子どもたちの「発想力」を大きく育てるものとして取り組んでいます。物語から一瞬で人生を感じ取ります。それだけではなく、舞台上、生きている人間から、可能性の大きさや、多様さを伝えられます。</p> <p>ゆえに俳優たち各人は『全体』に関わります。演技はもちろん、裏方の仕事、美術の 製作に携わります。そして音楽はすべて生演奏で、俳優自身が演奏します。俳優は、身をもって子どもに、「生きることの魅力」をつたえます。子どもが観る舞台に立つことは、その空間に全人格をさらし、渾身の力で向かって立つということだと考えます。芸術鑑賞とは、その人間を、子どもたちが観ることであります。</p> <p>劇は、奥深いテーマ《真理を語りかける》アンデルセン を、選んでいます。そのテーマ《真理》を伝える為に、楽しく、面白く、音楽性も高く、と、磨き抜きました。あとむの目的とびたりと重なる、本事業の目的によって、東京近郊だけでなく、全国の学校、子ども達に広く観てもらえることは、この上なく有りがたく、素晴らしい機会と感謝しつつ、申請いたします。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>◎特別リーフレットを作成しました。</p> <p>【当日のあとむの舞台・客席の設置】・【入場・着席風景】 【開演中・上演中の様子】・【終演後の交流等の様子】、等々を、実際の公演時の写真や図を掲載したリーフレットを作成し、先生方にお届けします。体育館におけるあとむのユニークな舞台設営・客席設営を、一目でイメージして戴けます。</p> <p>◎席割表は、クラスの人数を伺い、当方で作成してお送りし、確認して戴きます。先生方には、本番の日の開演時間と、搬入・仕込の時間等を決めて頂くのみ、当日は、設営準備などお手を煩わせることは一切ありません。</p>
--	--